

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 5 月 29 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/29 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	30.9	107.4 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 4.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m ³ /h	46.6	13.80 kPa g	A系:0.24 vol% B系:0.23 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	58.5	0.27 kPa g	A系:0.15 vol% B系:0.14 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1、3号機】

・5/29 15:43 1号機原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約 4.4m³/hから約 3.5m³/hに(炉心スプレイ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続)、3号機原子炉への注水量について、給水系からの注水量を約 1.9m³/hから約 2.9m³/hに変更(炉心スプレイ系からの注水量は約 5.0m³/hで継続)。

※1号機～3号機原子炉においては、現在の注水量(1号機:約 6.5m³/h、2号機:約 9.0m³/h、3号機:約 7.0m³/h)を継続すると、夏季の外気温の上昇に伴い、原子炉压力容器・格納容器の温度が緩やかに上昇し、3号機の温度が1、2号機と比較し若干高い温度となることが予想され、保安規定上の運転上の制限に対する余裕が小さくなることから、注水量を変更することとした。なお、注水量変更にあたっては、発熱と除熱のバランスによる温度予測をもとに、1～3号機の夏季の温度がほぼ同程度になるように、現在の原子炉への注水の総量を維持したまま、最適な配分(1号機:約 5.5m³/h、2号機:約 8.5m³/h、3号機:約 8.5m³/h)となるように段階的に変更する。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/29 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中	22.9
3号機	循環冷却システム	運転中	22.3
4号機	循環冷却システム	運転中	32

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/27 14:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/19 9:15 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	5/29 10:00 ~ 16:00 移送実施

【3号機】・5/11～ 循環水ポンプ吐出弁ピット内にコンクリートを充填するため、同ピット内の溜まり水について、2号機タービン建屋地下への移送を適時実施。

5/28 同ピットへのコンクリート充填作業を終了。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (5/29 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/5/28 以下に示す2号機原子炉格納容器温度監視温度計(保安規定第 138 条監視対象計器)において、温度指示の有意な変動(階段状の上昇または下降)を確認。温度トレンド評価の結果、当該計器の異常の可能性があると判断したことから、5/29、当該計器の直流抵抗測定を実施。今後、当該計器について信頼性の評価を行う予定。なお、短半減期核種の濃度から、再臨界に至っていないことを確認している。
 - ・RETURN AIR DRYWELL COOLER(TE-16-114A)[監視温度計] 58.0℃→64.7℃
 - ・RETURN AIR DRYWELL COOLER(TE-16-114D)[監視温度計] 43.7℃→47.6℃
 - ・SUPPLY AIR D/W COOLER HVH 2-16A(TE-16-114F#1)[参考温度計] 41.0℃→35.0℃
 - ・SUPPLY AIR D/W COOLER HVH 2-16C(TE-16-114H#1)[監視温度計] 52.1℃→48.2℃

(温度データは 5/28 17:00→同日 23:00 の値)
- ・H24/5/29 10:33 これまで機器ハッチを開口することにより行っていた 5号機原子炉格納容器内の排気について、原子炉格納容器内より直接行うため、震災以降停止していた原子炉格納容器排気ファンを起動。
- ・H24/5/29 12:30 頃 発電所西門に設置してある可搬型モニタリングポストについて、データが免震重要棟監視盤にて読み取れない事象が発生していることを確認。また、代替監視用の無線式のモニタリングポストについてもデータが免震重要棟監視盤にて読み取れない事象が発生していることを確認。なお、12:30 以降のデータについては現場での作業員による代替測定を継続しているため、データの監視に問題はない。
- ・H24/5/29 13:10 免震重要棟前に設置している、連続的に空気中の放射性物質濃度を測定する測定器(連続ダストモニタ)において警報が発生。警報を受け、全面マスク着用の運用に基づき、同日 13:15より全面マスク着用を指示。その後、モニタリングポストの値に有意な変動はないことを確認。測定器のフィルタを交換し、13:50、リセット操作により再起動。免震重要棟前における手動での空気中の放射性物質濃度の測定の結果、空気中の放射性物質濃度は検出限界値未満(検出限界値: 1×10^{-5} [Bq/cm³])であり、全面マスク着用基準値(1×10^{-4} [Bq/cm³])以下であることが判明したため、13:53、全面マスク着用が省略可能である通常の運用へ戻すアナウンスを実施。

以上